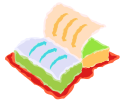


# レファレンスコーナー



県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q 仏像が蓮の花の上にいるが、その花はなんと呼ばれているのか。また、なぜか。

## 〔回答〕

仏像に関する質問なので、まずは仏像の資料を確認しました。『**仏像事典**』（参考文献 1）の巻末付録に「仏像各部の名称」というページがあり、菩薩像、阿弥陀如来像などのイラストが掲載、それぞれの部位に名称が記載されていました。お問い合わせのあった部位には、「台座」「蓮弁」「蓮華座」という表記がありました。



『**仏像図典**』（参考文献 2）の巻末付録「仏像便覧」にも、イラスト付きで各部位の名称の記載があり、該当する部位には「蓮華座」「蓮肉」「蓮弁」という表記がされていました。それらをもとに仏教辞典を通覧しました。

その中で、詳しく説明されていた辞典は『**岩波仏教辞典**』（参考文献 3）で、「台座」項には、「彫像を安置するための台。～もっとも一般的なのは蓮華座で、蓮の花が古代インドにおいて根本神ヴィシュヌの創造の意欲を象徴する聖なる花として崇められたことに起源する。仏教思想の展開に伴い、尊像は蓮華から化生するものとしてあらわされるようになり、蓮華座が成立した。」という説明がありました。また「蓮華座」項には、「仏像の台座として最も一般的な形式で、蓮の花の開いた様をかたどる。～本来は古代インドにおける蓮華崇拜の観念が仏教のなかに取り入れられて成立したもので、無量の想像力の象徴としての蓮華が起点となっている。古代インド神話のなかのブラフマー（梵天）は、根本神ヴィシュヌのへそに生じた蓮華から生まれた創造神である。この神を仏像に置き換え、仏像もまた蓮華から生まれ出た聖なる神格として表現されるようになった。」とありました。

また、ハスの写真か絵が見たいということになり、『**図説佛教語大辞典**』（参考文献 4）に、「ハス」のカラー写真の掲載がありましたので、あわせて提供しました。

キーワード： 仏像 仏教 蓮華座 台座 蓮 ハス

## 〔調査プロセス〕

1. 仏像に関する資料を通覧する。
2. 1の資料をもとに仏教辞典で確認。



## 【参考文献】( )内は当館請求記号

- 1 『**仏像事典**』 久野 健 // 編 東京堂出版 1975年 (R/718/ク3/3)
- 2 『**仏像図典 増補版**』 佐和 隆研 // 編 吉川弘文館 1990年 (R/718/サ2/2)
- 3 『**岩波仏教辞典**』 中村 元〔ほか〕 // 編集 岩波書店 2002年 (R/180.33/イ)
- 4 『**図説佛教語大辞典**』 中村 元 // 編著 東京書籍 1988年 (R/180.3/ナ1/1)

**Q 岩手県には氷餅(こおりもち)という食べ物があるか？あるとすれば江戸時代に非常食として食べられていたのか等、歴史的なことを知りたい。**

**【回答】**

『日本大百科全書 9』、93 ページ「氷餅」の項目には、信州(長野県)名物の一つで、凍み餅(しみもち)または雪餅(ゆきもち)とも呼ばれ、鎌倉時代初期から食されていることが記載されていました。武士は陣中の糧食としてそのまま食べ、江戸時代には非常食として食されていたようです。

岩手には郷土料理で、「凍みもち(しみもち)」「氷餅(こおりもち)」「凍餅(すんもち、しみもち)」「干し餅(ほしもち)」という名前の餅料理があり、携帯食や保存食として食べられたほか、おやつ、主食の代用でもありました。岩手県央地域や一関市等では、旧暦 6 月 1 日にこれを食べると歯が強くなるといわれてきました。

江戸時代の非常食として氷餅が食べられてきたかということや、岩手県南の餅文化との関わりは確認できませんでしたが、盛岡藩では凶作が多く、江戸時代には 90 回以上発生しています。『民間備荒録』や「飢饉考」(『岩手史叢 第 8 巻』に収録)等の資料からは、凶作の時に救荒食物として通常の生活では摂取していない自然草木を代用食品として食していたことがわかります。

**キーワード:** 氷餅 雪餅 郷土料理 救荒食 しみもち すんもち かんもち

**【調査プロセス】**

1. 百科事典で「氷餅」の概要を確認。
2. 食文化や民俗関連資料をブラウジング。
3. 県史、地方史の民俗(食文化)を確認。



**【参考文献】( )内は当館請求記号**

- 1 『日本大百科全書 9』  
小学館 // 出版 1986 年 (R/031/ニ 10/1-9)
- 2 『岩手の懐かしいおやつと遊び』  
岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会 // 編・出版 1995 年 (K/383/イ 5/2)
- 3 『日本の食生活全集 3 聞き書 岩手の食事』  
「日本の食生活全集 岩手」編集委員会 // 編集 農山漁村文化協会 // 出版 1984 年 (K/596/キ 1/1 イ)
- 4 『子や孫に伝えたい食の技』 岩手県生活研究グループ連絡協議会 // 編・出版 2006 年 (K/383.8/イワ)
- 5 『食べよう いわて』岩手県 // 監修 岩手県農業改良普及会 // 出版 2011 年(K/383.8122/タヘ)
- 6 『民間備荒録』建部 清庵 // 著 寛政年間  
※ 和装本(<http://www.library.pref.iwate.jp/ihatov/no1/html1/b40/index.html>)のほか、現代語訳等の所蔵あり。
- 7 『岩手史叢 第8巻』(「飢饉考」収録)  
岩手県立図書館 // 編 横川 良助 // 著 岩手県文化財愛護協会 // 出版 1984 年 (K/080/イ 3/8 エ)

※このレファレンス詳細は国立国会図書館「レファレンス協同データベース」で公開されています。  
是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」 <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>